

令和6年9月11日(水) 5時間目 特別講演会「どんな時もあきらめない～ネバーギブアップ～」

資料《中日新聞で掲載されたボビー先生の講演活動》

1日3回 ご飯を食べるのが夢だった

児童労働や難民キャンプでの生活を経て、現在は県内で暮らすガーナ出身のボビー・サムスさん(53)が5日、豊明市の市共生交流プラザ「カラット」で「どういう場面でもあきらめない」と題して講演した。豊明秋まつりの一環で、国際文化交流協会が国際理解講座として開いた。

ガーナで食料を得るた

ガーナで難民キャンプ経験

ボビーさん 豊明で語る

め、4歳からカカオ畑で働いていたボビーさんは、内戦で7歳の時、難民キャンプへ。雨風やサソリ、ヘビの恐怖にさらされる中、約1カ月半滞在し渡米した。ニューヨークのスラム街で暮らし、大学を卒業後、難民になる時に助けてくれた日本人に恩を返すため、来日。県内などの学校で外国語指導助手(ALT)を務

「どういう場面でもあきらめない」と題して講演したボビーさん＝豊明市のカラットで

めた。現在は、人材派遣会社のALT派遣を担当する部署に務め、毎月の収入の一部から基金を創設し、ガーナの小学校建設や無料の健康診断などを行う活動もしている。

講演でボビーさんは、「1日3回ご飯を食べるのが夢だった」と半生を振り返り、「人生は素晴らしいし、楽しいし、美しい。怖がっても泣いてもいいが、自分に負けないことが大事」と強調。日本の子どもたちは特に失敗を恐れる傾向が強いと指摘し、「間違った時は『ノー』でなく『ナイストライ』と声を掛ける。失敗したことのない人は成功のチャンスが見えない。子どもたちに失敗させてあげてください」と語りかけた。

(平木友見子)